



安城市議会議員 石川つばさ通信 号外 市政レポート

安城市役所 非正規依存顕著

9月定例会の議案質疑を通じ、安城市役所における非正規職員への依存度が依然として高止まりしている状況が浮き彫りとなりました。

雇用形態別の職員数(4月1日時点) 単位:人

	正規	フルタイム の任期付	再任用	嘱託	任期付 短時間勤務	小人数学級 市費負担教員	合計	臨時
2017年度	994	62	66	20	59	17	1,218	1,573
2018年度	1,000	64	55	23	60	16	1,218	1,558

上記の様に、正規職員数を遥かに凌ぐ人数の臨時職員が日々の業務を行っていることが分かります。2020年度からは、これら非正規の職員の任用根拠に関する法律が改定されたことを受け、新たに「会計年度任用職員」制度がスタートすることとなります。名称の通り会計年度内での任用であり、不安定な働き方の固定化に繋がらないか懸念されます。

ノー残業デーのアナウンス廃止

安城市役所では、多くの職員が過労死ラインを超えて働いている実態があります(詳細は前月号参照)。そんな中、先日ふと気づいた事があります。これまでノー残業デーである木曜日は、17時を過ぎると庁舎内に「本日はノー残業デーです。速やかに帰宅しましょう。」という旨のアナウンスが流れていましたが、パタリと聞かれなくなったのです。確認したところ、「急かされているような気分になる。」という理由から放送をやめるよう、来庁者から苦情があったことを理由にアナウンスを取りやめたとのことでした。

無論、アナウンスをこれまで行ってきただけでも長時間残業は横行していました。したがって、アナウンスさえあれば問題が打開できるとは思っていません。ただ、少なくともこれまで行ってきたことを取りやめることでプラスに作用することはないはずです。加えて、今回の苦情は市民の貴重なご意見という内容ではなく、むしろ聞き入れるべきでないクレームの類であると私は認識しています。市役所に限らずどんな施設にも終わりの時間はあります。閉店間際に飲食店に入れば、オーダーストップなどでお客の立場としては急かされる気持ちになりますが、さりとて「急かされて気分が悪いからオーダーストップなどやめろ」というのは正当な要求とは言えません。この度の一件は、不当な要求を飲んだという悪しき前例を作った意味でも残念に思います。

業務量に見合う適正な人員配置による過労の根絶と併せ、悪しき前例を残さない意味でもアナウンスの早期再開が望まれます。